

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 津久見 高等学校	
学校教育目標	至誠・感動・進取の校訓のもと、自ら主体的に考え、実践し、社会で輝く生徒を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・学校の現状に即して、適切な課題を設定し、改善に向けた目標が設定されている。 ・入学希望者の拡大に向けて、学校の魅力を検討・再構築するための目標が設定されている。 ・津久見高校の特色を活かした学校経営がなされており、少人数のメリットを発揮した取組がされている。 ・生徒がどのように成長したか、どのような資質能力を身に付けたかをより具体的に示す工夫が必要である。 ・卒業後につながる力の育成や、学び続ける姿勢の形成を、学校目標や成果に位置付けることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後につながる力の育成や、学び続ける姿勢の形成を成果に位置付けるため、学校教育目標および重点目標を再設定し、教職員全員で共有する。 ・教育活動や各種行事後に生徒がどのように成長したか、どのような資質能力を身に付けたかを見取る振り返りシート(アンケート)を実施し、改善に活かす。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・各アンケート、学校関係者評価の結果に基づき、取り組むべき課題を明確にして、取組を進めている。 ・数値として把握できる課題(アンケート等)を起点に、重要事項に対して改善を図る姿勢が見られる。 ・課題解決に向けたさまざまな取組がタイミングよく設定され、各々の改善の効果が確認されている。 ・結果として入学したい生徒が増えつつあるということは、学校が認められていることと考えられる。 ・PDCAは機能している一方で、生徒の成長の可視化と改善の成果の関係を整理して示す余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各アンケート、学校関係者評価の結果に基づいた取り組むべき課題を「短期」「中期」「長期」に仕分けし、適切な時期に深化させる取組を進める。 ・生徒の成長の可視化と改善の成果の関係を整理するため、各分掌・学科主任を中心に、短期スパンで取組指標の評価・検証を行うPDCAサイクルの充実を図る。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・学校運営協議会の設置により、多方面との連携協力が図られている。 ・生徒が各種の会合に参加し、学校の成果(良さ)を訴えることに成功している。 ・さまざまな取組を通じて、学校に対する理解を高めている。 ・地域との連携がされており、行政、企業、学校が一体となった関わりができています。 ・通信の発行やホームページ、SNSの更新がしっかりとされており、情報の発信ができています。 ・情報発信が「内輪」で完結しないよう、中学校や地域住民など、さらに広く届く工夫をすすめることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学校運営協議会委員や地域等との連携を深め、生徒が活躍できる行事等に積極的に参加する。 ・HPやSNS(Instagram等)の更新を継続するとともに、中学校や地域住民などが閲覧する広報誌「Tsuko通信」や市報の記事内容を工夫・充実させる。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・授業改善PTが中心になって、教員研修は質・量ともに充実してきている。 ・個々の教員の実践では、生徒の意欲を引き出す工夫が見受けられる。 ・実業系の生徒にとっては資格取得の学習がモチベーションを高めている。 ・授業内で「協働的な学び」「ペア・グループ活動」がされており、授業改善が図られている。 ・授業内で学習を完結させるという意識が、結果として家庭学習の必要性を相対的に低下させている可能性がある。 ・生徒の自己効力感を高めるためにも、「考えさせる」「探究させる」工夫を授業・課題に組み込むことが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善について職員の意識向上を図るため、職員研修や授業研究会を年間2回ずつ実施する。 ・授業改善プロジェクト会議で「考えさせる」「探究させる」場面を設定した授業の創造を協議・共有し、互見授業でその効果を検証することにより、授業改善につなげる。 ・普通科では、教育課程編成(「理数探究基礎」の新設、「総合的な探究の時間」の増単位)を軸とした探究学習(つくみLabo)の充実を図る。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携がよく取られている。 ・少人数のメリットを生かし、生徒の状況把握が早く、早期対応につながっている。 ・いじめ対策として、生徒が相談しやすい環境が整備されており、支援体制の継続が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期始め(2学期はRAMPS実施後)に生徒理解を目的とした担任・副担任等による面談期間を設定する。 ・いじめ等に関するアンケートを各学期末に実施することに加え、外部専門家(SC、SL等)を活用した職員研修を実施する。 ・SCやSSW等の外部専門家が参加する情報共有会議を毎月実施し、配慮内容に応じたきめ細かな支援体制を維持する。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・学校施設・設備の老朽化があり、早急な対応(修繕)が必要な場所がある。 ・非常時の対応については、マニュアル整備等、体面は適切に整えられている。 ・事故発生後の対応に加え、使用停止の判断や生徒への周知など、未然防止の安全対策も求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化の見える学校施設・設備については、安全・安心な学習環境になるよう関係課と連携を取り、早急な修繕・改修を進める。 ・危機管理マニュアルの簡易版を生徒・保護者に周知し、避難訓練を通して災害発生時の対応と未然防止の取組を浸透させる。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「お互い様シート」の活用が図られ、出張・年休等による時間割変更などに迅速に対応する仕組みが作られている。 ・ストレス診断の結果より、管理職・同僚による支援が上手く機能していることがわかる。 ・年休取得状況も好転している。 ・さらなる業務の標準化や外部資源の活用等、継続的改善が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退庁日(ノー残業デー)の呼びかけ強化と、個別の月別超過勤務状況(超過勤務簿)の作成を継続する。 ・年休を取得しやすい環境整備のため、「お互い様シート(自習監督登録BANK)」の運用を徹底する。 ・業務の見直しを図るため、分掌引継ぎシートの活用を促進する。
	学校課題の解決に向けた取組等	○学校の魅力の発信の在り方。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の魅力を志望者および保護者に、より適切かつ効果的に届ける努力がなされている。 ・TikTok、InstagramなどのSNSを利用した情報発信によりイメージづくりは成功している。 ・高校卒業後の進路展望につながる魅力を創出して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津久見市内の中学3年生を対象に、DXハイスクールで購入した機器を活用した体験授業を実施する。 ・校内進路ガイダンスの内容精選と、キャリアデザインに即したインターンシップを実施することにより、就業先の開拓を行いミスマッチの防止を図る。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・津久見高校の特色を知ったうえで入学してきた生徒(特に実業系)には、一定の満足感を与えている。ここに安住するのではなく、さらなる飛躍を後押しして欲しい。 ・各種の資格検定(津久見シュラン)などへの取組を通じて「学び続ける態度・姿勢」の育成にもさらに注力して欲しい。特に基礎学力の充実のためにも、学校外での学習、読書など習慣が育まれることを期待したい。 ・生徒は「生徒間のつながり」「生徒と教員の関係性」を津久見高校の良さとして非常に高く評価している。生徒主体での活動を継続し、魅力ある学校を目指して欲しい。そのため、様々な場面で、学校の良さをアピールして欲しい。 ・全体として、生徒の学校満足度が高く、学校愛の強さを感じられる、非常に魅力的な学校であると感じた。その上で、もう一段上の目標や成果も検討して欲しい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくみLabo」を中心とした探究学習の体系的な確立と工業・商業・普通科の各学科が持つ専門性を融合させた探究活動を深化させ、生徒が地域課題の解決に主体的に取り組む姿勢を養う。 ・ICTを基盤とした授業改善と校務効率化を図るとともに、生成AI等の先端技術を適切に活用し、個別最適な学びを提供するとともに、教職員がより生徒一人ひとりと向き合う時間を確保するための働き方改革を推進する。 ・学校運営協議会設置校として地域資源を教育に積極的に取り入れるとともに、SNS等を通じて本校の特色ある教育活動を広く県内外へ届け、生徒が自己肯定感を高め自校に誇りを持つ体制を構築する。 			